

モニタリングシート（心理学科）

| No. | モニタリング項目 | データ | データから見る点検結果（概要） | 課題 | 改善へのアクション |
|-----|--|---|---|---|--|
| 1 | 前年度の向上・改善施策の実施状況（成果・課題・継続事項）はどのような状況か。 | ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策 | 向上・改善施策を踏まえ、学科会議や改組ワーキングにおいて DP および CP について検討し、それに基づいてカリキュラムツリーを作成した。 | 特になし | 作成した DP、CP、およびカリキュラムツリーを学生に周知させる取り組みについて検討する。 |
| 2 | 経年でみた志願者動向はどのような状況か。 | ・各種入試結果（入試区分別・高校ランク等） | 令和 6 年度に設置される心理共生学部心理共生学科の志願者動向を学科として注視する。志願者獲得のために、新学科の認知度を大学改革推進室や入試広報課の協力を得て高める。 | 心理共生学部心理共生学科のコンセプトを志願者に対し効果的に周知する必要がある。 | 大学改革推進室や入試広報課の協力を得て、オープンキャンパスの日程に合わせたイベントの開催や動画の作成などを通じて、心理共生学部心理共生学科のコンセプトを効果的に周知する。 |
| 3 | 経年でみた新入生の動向はどのような状況か。 | ・新入生アンケート（第一志望・選択理由・本学への期待等） | 心理学科の新入生は、教育内容、少人数教育、女子大である点などを本学科選択の理由としている。特に、教育内容については、学科においてもセールスポイントと認識している点である。 | 女子大であることが本学を選んだ理由になっている新入生が散見されるが、その背後にはどのようなニーズがあるのか不明である。 | 新入生アンケートから明らかとなった本学を選んだ理由の調査などから、その背後にある新入生のニーズを把握する（例えば、女子大だからという理由は増え、少人数教育・面倒見の良さという理由が減っていることから見える新入生の特性）。 |
| 4 | DP・CP と関連したカリキュラムが各学位プログラムレベルで適切に設計されているか。 | ・カリキュラムマップの状況 ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） | 心理共生学部心理共生学科の設置に向けて新しい DP 及びそれに即した CP を定めた。DP に定められた各能力、及び CP に定められた内容の両者と関連したカリキュラムを作成できた。 | 令和 6 年度以降、新しく作成したカリキュラムによって DP が実現されているかどうかを検討する必要がある。 | 令和 6 年度以降、新しく作成したカリキュラムによって DP が実現されているかどうかを検討する。 |
| 5 | カリキュラム・授業は、適切に運営されているか。 | ・授業アンケート ・ALCS 学修行動比較調査（経験） ・卒業時アンケート（経験） ・最低修業年限卒業率 | 授業アンケートの結果からは、特に大きな問題は認められない。CP に定められた内容が学修経験に反映されているかどうかを引き続き注視する。 | オンライン授業やオンデマンド授業をどの科目で実施するのかについての考え方を早急に検討する必要がある。 | オンライン授業やオンデマンド授業を学科の授業で導入する基準やあり方を早急に検討する。 |

| No. | モニタリング項目 | データ | データから見る点検結果（概要） | 課題 | 改善へのアクション |
|-----|--|---|--|---|--|
| 6 | DP にもとづく学修成果の到達度の状況。 | <ul style="list-style-type: none"> ・ジェネリックスキル測定テスト（3回生） ・ALCS 学修行動比較調査（修得度） ・卒業時アンケート（修得度） | リーダーシップをとることとかわわる DP の項目である「社会性・自律性」については、修得度が不十分である。 | 学科教員の間で、「社会性・自律性」に関する修得度が低い点は共有されているが、それをどの程度引き上げていくべきなのか、あるいはそのための方策についてまだまだ議論する必要がある。 | 「社会性・自律性」の修得度を高めていく方策の検討と試行を引き続き行っていく。 |
| 7 | 進路・就職及び免許・資格取得状況。 | <ul style="list-style-type: none"> ・進路・就職結果データ ・免許・資格取得状況 | 大学院進学者が比較的多いことを除いては、特に進路・就職状況に際立った特徴はない。 | 特になし | 特になし |
| 8 | 各科目の成績および卒業論文・研究が適切に評価されているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の成績分布 ・卒業論文・研究の判定結果 | 成績分布について特に目立ったばらつきはない。卒業研究の判定も適切に実施されている。 | 特に卒業研究の評価については、学科内で評価についての考え方の共有が必要である。 | 卒業研究の評価についての考え方の共有に向けて学科内での議論を開始する。 |
| 9 | 職位・年齢のバランス、非常勤比率に留意し、かつ、カリキュラムに基づく教員組織となっているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・所属教員の状況 ・科目群別非常勤比率 | 令和5年度現在、教員の職位・年齢・性別バランスは概ね問題はない。ただ、高齢化は免れず、新規採用時には若手の採用が望まれる。非常勤講師の配置や比率について問題はない。 | 将来的に、若手の教員が不足している。 | 30歳代の教員を順次採用していく。 |
| 10 | 学科個別のFDについて、課題認識および今後の方向性、外部環境を踏まえたFDを実施できているか。 | <ul style="list-style-type: none"> ・FDの取り組み状況 ・前年度点検シート ・自己点検・評価から見る課題に対する向上・改善施策 | 学科で生じた小さな問題については、学科会議で解決するとともに。比較的大きな課題に対してはFDを実施している。 | 非常勤講師の声をFD活動に反映しにくい。 | 非常勤講師を含めた形でFD活動を行う体制を整える。 |
| 11 | 上記以外で「継続すること」「課題」「次へのアクション」「全学レベルで検討すべき事項(提案)」があれば入力 | <ul style="list-style-type: none"> ・各種データ | 特になし | | |